

4 令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

| | 視点 | 4年間の目標 (令和2年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月25日実施) | 総合評価（3月31日実施） | |
|---|-----------------|--|---|--|--|--|--|---|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | <p>・生徒の意欲や探究心を高めるため、組織的、恒常的な授業改善に取り組む。</p> <p>・令和4年度実施の学習指導要領に基づく新たな教育課程編成を検討し、実施する。</p> <p>・年間行事計画において学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。</p> | <p>・「主体的・対話的で深い学び」を通して、他者と協働して課題を解決する力を育成するために、ICT環境を効果的に活用した授業研究を推進する。</p> <p>・学校行事を、生徒のより主体的活動となるよう発展させる。</p> | <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習を展開するためのICTの利活用を研究テーマとし、相互授業参観や公開研究授業を行って、学校全体で授業のノウハウを継続的に共有し蓄積することで授業改善に努める。</p> <p>(2)生徒主体の学校行事として発展させるため、各グループや学年と連携し、生徒の活動を支援していく。</p> | <p>(1)ICTを活用した授業の工夫を学校全体で共有できたか。また、ICTを活用することで、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現できたか。</p> <p>・一人1台端末とICT環境を効果的に活用した授業を意識した教科・科目数、授業時間数。</p> <p>(2)新生活様式に沿った学校行事の実施及び生徒主体の運営組織の活用、生徒等へのアンケート調査の結果。</p> | <p>(1)一人1台端末の導入により、特に1,2年生の授業の多くでICTの活用が進んだ。また、相互授業参観や公開研究授業を通して、ICTを活用した授業のノウハウを学校全体で共有できた。生徒による授業評価アンケートからも、主体的に考える姿勢の向上がうかがわれた。</p> <p>(2)生徒会役員を中心に、生徒の意見を多く取り入れ、各グループや委員会等と連携し、生徒主体の行事運営をすることができた。</p> | <p>(1)生徒の主体的・対話的で深い学びを定着させるため、従来の教科横断的な職員研修に加え、具体的な場面に応じた効果的な活用方法を職員同士で情報交換して実践する。</p> <p>(2)文化祭は、制限なしで一般公開し、中学生や保護者等多くの来場者があった。生徒等のアンケートや意見を活用し、今後もよりよい学校行事が実施できるよう検討していく。</p> | <p>(1)授業の中でICTを活用することは当たり前のこととなっているが、その一方で、筆記などの手を動かして学ぶ教育の重要性も保ってほしい。</p> <p>(2)生徒の主体的活動を通じて、地域や小中学校との交流が盛んになることを期待している。</p> | <p>(1)多くの科目でICT環境を効果的に活用した授業が展開されるようになった。その結果、視覚的な学習効果を得ることのみならず、生徒の課題提出や意見発表の場を通じて主体的で対話的な深い学びにつなげることができた。今後ICTを利活用することで、いっそうの主体的で対話的な深い学びにつながるような授業の工夫を学校全体で共有していく必要がある。</p> <p>(2)生徒会役員を中心とした生徒主体の行事運営ができた。今後もより生徒の主体的な行事となるよう、生徒会や委員会、各グループ及び地域等と連携していくことが課題となる。</p> | <p>(1)教科横断的な研修に加え、各科目の単元レベルでの活用技術を職員室内で情報交換して実践していく。</p> <p>(2)各行事で出た反省点やアンケート結果を活用し、よりよい行事となるよう、改善点や新たな取り組みを検討していく。</p> |
| 2 | (幼児・児童・)生徒指導・支援 | <p>・一人ひとりの生徒が高い規範意識と社会性を持つことで、地域に愛され、信頼される学校づくりをめざす。</p> <p>・個々の生徒の状況に応じた支援体制の充実を図る。</p> | <p>・様々な場面で地域社会の一員としての規範意識を育む。</p> <p>・校内の教育相談体制を充実させ、支援体制を整備するとともに、いじめを許さない環境づくりに努める。</p> <p>・部活動のさらなる活性化を図る。</p> | <p>(1)服装・頭髪・遅刻・授業規律、自転車乗車マナー等について、年間を通じ段階的な指導を行う。</p> <p>(2)①教育相談コーディネーターを中心とする教育相談体制を充実させる。</p> <p>②いじめ防止アンケートや個別面談等により、いじめの早期発見といじめを許さない環境づくりに努める。</p> <p>(3)新入生の部活動体験キャンペーンを全校上げて実施し、その後の各部活動の活動状況を把握し、部員の定着化を図る。</p> | <p>(1)特別指導・再登校指導・頭髪指導・遅刻指導等の件数。</p> <p>(2)①SC・SSWの利用件数とその内容。</p> <p>②いじめアンケートの結果。</p> <p>(3)1年生及び学校全体の部活動への加入率が50%以上となったか。</p> | <p>(1)服装・頭髪・遅刻については大半の生徒が基本的なルールを遵守している。登下校指導を定期的実施したが、月に1~2件、近隣住民から乗車マナーに関する指摘があった。</p> <p>(2)①SC,SSWの利用件数は延べ148件(3/4現在)。SC,SSWの来校が増え、相談件数が大幅に増加した。</p> <p>②いじめと認定されるような事案はなかった。</p> <p>(3)新入生の部活動体験キャンペーンにより、年度当初の部活動加入率が59.6%となり、前年度より増加した。</p> | <p>(1)・全学年での統一した指導と情報の共有を図る。</p> <p>・登下校指導を継続しつつ、自転車乗車マナーや交通安全についての意識をさらに高めていく。</p> <p>(2)①②・生徒情報を共有し、特に様々な家庭の事情を抱えた生徒に対するきめ細かい配慮・支援を継続していく。</p> <p>(3)部活動加入率の調査を年度途中で行った。全体で50.4%と50%を維持しているが、1年生の退部者が多く、課題が残る。</p> | <p>(1)頭髪については、一昔前に比べるととても落ち着いている。生活の基本である時間を守ることに、しっかりと指導してほしい。</p> <p>自転車の乗車について、危険な場面を多く見かけるので、指導をしてほしい。</p> <p>(2)コロナ以降小中学校でも不登校の児童生徒が増えている。その対応について、高校でも支援の意識が高まっていることを評価したい。</p> <p>(3)各部活動の活躍を楽しみにしている。</p> | <p>(1)服装・頭髪については、大半の生徒が本校のルールを遵守している。</p> <p>○遅刻については、指導件数は減少しているが、継続指導が必要な生徒が各学年に数名ずついる。</p> <p>○自転車乗車マナーは改善されつつあるが、引き続き重点的な交通安全指導が必要である。</p> <p>(2)SSW,SCの来校が毎週となったことで利用者が大幅に増え、生徒の悩みの軽減につながっている。</p> <p>(3)部活動体験キャンペーン制度を継続し、新入生の部活動加入を促進する。部活動加入率の調査を継続的に行う。</p> | <p>(1)現在の指導体制が形骸化することのないよう、全学年での統一した指導と情報の共有を図る。</p> <p>○時間とルールを守ること、とりわけ交通安全ルールを守ることの大切さを粘り強く指導していく。</p> <p>(2)ケース会議などで生徒情報を共有し、特に様々な家庭の事情を抱えた生徒に対するよりきめ細かい配慮・指導を行う。問題が発生した際の初期対応、保護者への対応を丁寧に、確実に。SSW,SCとの連携を緊密にし、効果的に活用していく。</p> <p>(3)かながわ部活動の日を活用し、日々の部活動を振り返り、全校挙げての部活動活性化に取り組む。</p> |

| 視点 | 4年間の目標 (令和2年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月25日実施) | 総合評価(3月31日実施) | | |
|----|---------------------|---|--|---|---|---|---|---|--|---|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 | |
| 3 | 進路指導・支援 | ・将来の職業を意識した探究活動をとおり、生徒の自己実現を果たすためのキャリア教育を推進する。 ・一人ひとりの社会的、職業的自立を目指すために、本校生徒の個性に応じた進路決定を支援する。 | ・探究活動を通して自己の興味・関心や適性を意識させ、進路実現のための具体的手法を考えることができるよう支援するとともに、社会的、職業的自立に必要な行動や態度を育む。 | (1)探究活動を通して興味・関心を持った職業や進路について、それを実現するために必要な手立てを考え、具体的な活動に反映させる。 (2)進路ガイダンスや体験活動等、社会との関わりを通して社会的な規範意識の向上を目指す。 | (1)探究活動の発表、振り返り活動の充実度。オープンキャンパス等への参加や、進路希望調査による具体的な進路活動の進捗状況の確認。 (2)進路ガイダンス後や体験活動等への参加件数と、その振り返りの充実度。 | (1)体系的な探究活動の枠組を通じた調べ学習などをもとに、オープンキャンパスなどへの参加、発表へ繋げることができた。 (2)体験活動等への参加者数は伸び悩んだが、参加者は自らの進路を意識した活動を行い進学、就職に係る面接などに活かすことができた。 | (1)それぞれの発表を通して相互に上級学校への興味を持てるような視野の広さを身につける指導を行う。 (2)就業体験活動など社会との関わりから、求められる自分を理解し、総合型選抜など自己のフィールドにつながる発信ができる力を身につけさせる。 | (1)さまざまな進路の選択肢がある中で、教育課程とも連動して多様なニーズに応えようとしている。 (2)将来に向かって、学習面でも努力する生徒が増えることを期待する。 | 探究活動などを通して、将来に向けた目標達成のために早くからの意識付けを行うことができ、生徒たち自身の得意分野を活かした進路実現につなげることができた。進路希望についても安易な選択をしないための配慮に努め、未定の生徒など将来への不安を感じている生徒に対しても社会とのつながりを意識できるような指導を行っていく必要がある。 | 学校行事と関連した進路活動の実施や、適性検査などの客観的資料を活用した面談やインターシップなどの体験活動を充実させるなどの活動を体系化させる。 |
| 4 | 地域等との協働 | ・地域社会との交流や校種間連携を深め、生徒の校外活動を推進する。 | ・感染症の状況を踏まえつつ、地域の宮久保風揚げ同好会との協働や、地域の環境保全のための年2回の地域貢献活動を実施する。 ・さまざまな機会を通して、地域や中学生に向けて情報発信を行い、本校への理解の向上に努める。 | (1)福祉委員会の活動として、宮久保風揚げ同好会と協働するための手立てを考える。 (2)自治会や瀬谷支援学校分教室と連携した地域清掃活動を、安全に留意して実施する。 (3)学校説明会や体験授業等の工夫、学校HPの活用によって、地域や中学生の本校に対する理解を深めるよう努める。 | (1)学校行事等において、宮久保風揚げ同好会と協働して活動を行うことができたか。 (2)地域と連携して清掃活動・環境保全活動を行うことができたか。 (3)学校説明会への参加人数が増えたか。また、中学生に本校の魅力が伝えられるような学校紹介動画を作成できたか。 | (1)文化祭において福祉委員会と宮久保自治会が協働し、生徒及び一般来場者と一緒に和風を作成した。 (2)地域貢献活動の清掃活動を4年ぶりに実施し、大和市とも連携しながら安全に実施することができた。 (3)学校説明会への参加人数は増えなかったが、来場者からは好評であった。 | (1)宮久保自治会のお祭りに生徒が参加し手伝いをすることができた。今後は、様々な形で連携を検討していく。 (2)地域貢献活動の清掃活動として大和市地域自治体とも連携し活動していきたい。 (3)全公立展や公私合同説明会などの機会を活用して、学校説明会への参加者をさらに増やしたい。 | (1)地域の行事に、高校生がリーダーとなって参加していくことが生徒さん自身にとっても貴重な経験になると思う。地域の行事に生徒会の生徒がボランティアとして参加してくれて助かった。生徒界以外の生徒とも交流できる場が増えることよい。 近隣中学校等との部活動における交流は引き続き行ってほしい。 支援校分教室との交流も深めていけるとよい。 | (1)宮久保自治会との協働を継続するとともに、生徒によるその他の地域貢献活動について検討していく。 (2)地域清掃活動においては、約4年ぶりに1,2学年で実施した。大和市とも連携しながら、清掃場所も安全に配慮したコースを再検討し行った。今後は地域自治体からの要望や協力体制を構築し協働できるようにすることが今後の課題である。 (3)学校説明会への参加者をさらに増やし、中学生とその保護者に本校の魅力をいかに伝えることができるかが課題である。 | (1)地域自治会等と連携を密に取り、新たな取り組みについて検討していく。 (2)地域自治体や大和市と連携を取りながら内容や実施方法を検討していく。 (3)全公立展や公私合同説明会の機会を活用して本校への関心を高めることで、学校説明会への参加者を増やす。また、学校説明会のスライドや学校紹介動画を刷新して、本校の魅力を伝えられるようにする。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ・生徒の防災意識を高めるとともに、防災体制の整備を進める。また、環境整備として、ごみの分別、清掃活動を推進する。 ・耐震化工事を計画的に進めるとともに、事故防止に努める。 | ・DIG(図上訓練)を実施し、生徒の防災意識を高める。 ・清掃用具等を計画的に更新・整備し、清掃やごみの分別の意識を高めるとともに感染防止に努める。 ・耐震化工事を計画的に進めるとともに、事故防止に努める。 | (1)生徒向けのDIG(図上訓練)を実施して災害時に身を守るための方策を考えさせるとともに学校として備えるべきことを再確認する。 (2)清掃用具等を更新・整備し、日々の清掃活動の充実を図ることで校内美化と感染防止に努める。 (3)仮設校舎から南棟への引越しを安全かつスムーズに進めるための体制を整える。 | (1)生徒の防災意識が高まったか。また、学校として備えるべきことを確認できたか。 (2)校内の清掃状況、ごみの分別状況。 (3)関係機関と連携しながら、耐震化工事を計画的かつ安全に実施する体制を整え、安全かつスムーズな移動ができたか。 | (1)1学年向けのDIG訓練、2回の防災訓練、シェイクアウト訓練を通じ生徒の防災意識が高まった。生徒向けのアンケートでは防災についてもっと知りたいとの回答が多く、防災意識の向上を確認することができた。 (2)計画的な清掃活動を実施し、校内の美化環境を保つことができた。 (3)耐震工事、生徒の学習環境や安全面を考慮した教室配置や移動計画を策定し、安全かつスムーズに移動することができた。 | (1)DIGについて指導する教員に対して計画的にレクチャーし継続的に毎年実施できる体制を整える。生徒向けアンケートを活用し、実施後の検証、計画に反映するよう行う。今後生徒のニーズを踏まえた計画が課題である。 (2)美化の日を学校全体の取組として、さらに周知徹底を図る。 (3)耐震化工事に伴う移動に関して最後の年となる。生徒の安全と学校生活環境に配慮し、関係機関と連携して計画的に実行できるようにする。 | 年に一度は、防災活動を自治会といっしょにできるとよい。 | (1)DIGの実施において、生徒も意欲的に取り組み防災意識を高めることができた。防災意識の高まりを測るために生徒に対してアンケートを実施し、検証し生徒の実態に応じて改善していくことが今後の課題である。 (2)4年ぶりに大和市と連携した地域貢献清掃活動を実施することができた。トイレの清掃に関しては、改修により湿式から乾式になり、業者によるトイレ清掃も含め今後の課題として対応する必要がある。 (3)耐震工事に関して学校施設課や業者と連携し、生徒の学習環境や安全面を考慮した教室配置や移動計画を策定し、安全かつスムーズに移動することができた。 | (1)DIGについて指導する教員に対して計画的にレクチャーし継続的に毎年実施できる体制を整える。タブレット等情報端末機器を活用した方法を計画していく。 (2)毎月の美化の日を学校全体の取組として、全箇所全学年一斉に行い、さらに周知徹底を図る。トイレ清掃に関して、業者によるトイレ清掃も入れながら清潔かつ使いやすい環境を整える。 (3)耐震工事最終年になるので、生徒の安全と学校生活環境に配慮し、関係機関と連携して計画的に実行できるようにする。 |

